

さいわ
さいわ
さいわ

しあわせ

どんなときに、しあわせと感^{かん}じますか。思^{おも}いついた
ことを、つぎの空白^{くわいはく}に書^かいてください。

イエスさまは幸^{さいわ}いな人^{ひと}について話^{はな}す

私^{わたし}たちが見^みなければいけ^ないのはイエスさまの
行^{こうどう}動^{どう}です。イエスさまはしいたげられた者^{もの}とともに
生^{せい}活^{かつ}しています。これは明^{あき}らかに旧^{きゅう}約^{やく}聖^{せい}書^{しょ}の教^{おし}えと
は違^{ちが}います。貧^{まず}しい者^{もの}に施^{ほどこ}しをしたり、助^{たす}けたりす
る人^{ひと}が幸^{さいわ}いとされていたのであつて、貧^{まず}しい人^{ひと}や
罪^{つみ}人^{びと}と食^{しょく}事^じをとにもする事^{こと}は求^{もと}められていませんで
した。むしろ、さけるべき事^{こと}とされていました。貧^{まず}し
い人^{ひと}はあわれみをかけてあげる対^{たい}象^{しょう}とされていたの
です。

「貧^{まず}しい人^{ひと}々は、幸^{さいわ}いである」とい^{こと}う言^{ことば}葉^はを、イ

エスさまの行動こうどうに照てらしてみるところところなるでしょう

か。イエスさまを受け入うれていった人ひとは、富とんでいる

人ひとや力ちからのある人ひとではなく、まさますに貧ひとしい人や苦くるしん

でいる人ひとたちでした。イエスさまによつて、初はじめて

一人前いちにんまえの人間にんげんとして認みとめられたのです。イエスさまは

当時とうじの律法りつぽうによつて作つくられていた差別さべつを取りのぞか

れたのです。ですから、この言葉ことばを、今いまある苦くるしみを

がまんしていれば、死しんだ後あとにきつと報むくわれるから今いま

の状態じょうたいに耐たえなさいといふ意味いみでとらえない方ほうがよ

いでしょう。これこそ、宗しゅうきょう教あへんが阿片あへんとして批ひはん判はんされ

た精神せいしんです。

一方いっぽうで富とんでいる人ひとがおり、他方たほうで貧ますしい人がいる

事ことにイエスさまはがまんできなかつたのです。そうし

た制度せいどを支ささえている人ひとたちに批ひはん判はんを込こめて言いわれた

言葉ことばなのです。

